

# 第3分科会

## 女性の生き方 昨日・今日・明日

女と(男)、どう変わった?  
今は? これからは?

助言者 瀬谷 道子  
(「ステージ・刻」主宰)

司 会 細野千鶴子  
記 録 南山 智子



清瀬で「ステージ・刻」を開設されている瀬谷さんを助言者に迎え、人生をどう考え、どう生きていくか？等幅広いお話をいただきながら、参加者からはこれまでの生き方、夫婦のあり方などの話が出され、充実した分科会となりました。

## 助言者から

### 「ステージ・刻」について

自分の居場所作りと、自分とおなじ世代の人との交流作りの場を作りたいという思いから、11年前に「ステージ・刻」を開設。「ステージ・刻」とは、あなたの出番ですよと言う意味で、①何かをやってみたい！と思っている方の舞台にしてあげる ②学び・・・例えば、源氏物語を勉強したり等学びの場にする ③交流・・・心の悩みのある方達の集いの場にしてあげる（題名をつけずに自由に話をしてもらう）。

### どうしてこんな事をしているのか？

現在、人生100年と言われているが、その100年を大きなスタンスとしてどう生きるか？女性として人生をどう生きるか？を考えていかなければならない。その最初のランナーが私達（60代70代）であると思う。これから、病気等のマイナスの部分を抱えて生きていかなければならないとした時にどう考え生きていくか？

40年間新聞記者をしていたが、ライフワークとして女性の生き方のインタビューを行ったものを、「50歳からを生きる」として著書にしました。今自分をどう生きているか？についてインタビューした中で、有名な医師が癌患者に「あなたにとって必要な人は？」というアンケートを取ったところ、頑張れと励ましてくれる人や支えてくれる人ではなく、私の言うことをそのまま受け止めて共感してくれる人との回答が多かった。周りにそういう人が一人でもいれば安らかに過ごしていける。という話を聞いて、金持ちではなく人持ちで生きて行こうと考えフリースペースを始めた。今の自分を共感してくれる人を探すには、自分がそういう人にならなければならない。

## これからの女性の生き方

- ・今の自分を共感してくれる人を探す
- ・心をしなやかに柔軟性に・・・他人の言葉を受け入れられる
- ・今の自分に自信を持って・・・家庭の中では女性はいろいろな采配が出来る。
- ・新たな確信を持って・・・脳は、60台が最良でリーダーシップが取れる。
- ・生きることにはげない・・・先に結論を獲得しようとせず、やるべきことを踏んでいく。最終的に自分のやったことに責任を持つ。
- ・個として生きる・・・相手の中に入らない、相手に何かを求めない。

## 参加者自己紹介

**A**：毎年参加しています。この分科会で助言者、参加者の話を聞くと元気になれる。今の瀬谷さんの話を聞いて、一つ一つのことに納得しました。私も常にそのような考えで今までも、これからも生きていこうかなと思っています。「ステージ・刻」は、自分が求めている地域の集まりのようなものとは違い、格が高いのかと思っていたが、話を聞いてみて同じであると感じました。

**B**：毎年この分科会に参加して、いろいろな話を聞いて参考にしている。「女性の生き方、生きがい、昔の女性の生き方」等を、学んだ訳ではないが興味があり参加している。私としては、男女不平等だなど思いながら、なかなか口に出してははっきり言えない。さまざまな女性の一人一人の生き方と、そこで勝ち得た苦労、思いを勉強したいと参加している。

夫は2歳上だが、結婚当初は昔の男性像に染まっていたので大変でした。不平等だと意見した頃もあるが、今は理解してくれている。時間をかけて共有する関係になってきた。男は男らしく生きていかなければならない等から、女性が自立することをとても嫌がった。教師をしていて、子供を持ち共に子育てをしたかったが、抱える問題が多すぎて結局は退職しなくてはならなかった。働くということは、お金を得るだけではなく、自分のよさ能力を發揮しながら社会のために尽くすということと思うが、女性の場合はなかなか難しく、自分も実現出来なかった。今は辛

い時、病気になった時に夫と助け合い生活出来るようになってきた。先程の話の中で、友達を一人でも持ち、個として寄りかからないで、求めないで生きていくということがよくわかりました。一番そういう意味での対象者は夫かなと思います。

**C**：母親大会の実行委員に名前だけは載っているが、写真を担当しています。分科会で男性がいないのはこの分科会だけなので参加しました。毎年、ここに参加しているが、母親大会そのものに男性が参加してこない。今日は、高齢者の年金等の話があるので、例年より男性の参加が多いように感じる。本当は、こういうことを話あうこの分科会にこそ男性が参加したほうが良いと思う。この問題をクリアして、高齢者の生活の問題等を勉強していくことがベストだと思う。

私は昔から、職場等でも男性よりも女性の多い場所にいた。退職してから、写真クラブ等で初めて男性が多い場所で活動できるようになった。男性にもいろいろな男性がいる。年を取ったらこんな男性になりたいなあと思う先輩達に出会い嬉しい。しかし、話を聞くと、家庭に男の居場所がないため、写真にのめり込んだりする人もいるようだ。男の居場所を見つけて生きていくには、女性達とどう生きていくかをきちんとクリアしている人が幸せに暮らしていると思うので、勿体ないと思いながらこの分科会に参加しています。

**D**：初めての参加です。老人センターに行き遊んでいるが、そこで母親大会のチラシを見、意味がわからなかったのが、どういものか参加してみようと思い来ました。老人センターは60歳から利用することが出来るので利用するようになった。そこで、初めて卓球を習いとても楽しくなり唯一の楽しみとなった。TVで認知症になった時に運動をしていると進行が遅くなると聞いて運動している。今も仕事をしている。

**E**：60歳で退職してから、義母の介護のため志木に引っ越してきました。義母の介護が終わった後に、今まで外に出て過ごしていた夫が、体調を崩して以来引きこもりとなってしまった。誘っても外に出ようとしないため、足も弱くなり悪循環となっているが、本人のやりたいようにしている。私は、フラダンスを70歳から始めたり、今年はウクレレに挑戦している。今年健康診断で、癌の腫瘍マーカーが出て現在経過観察中で、自分も少しはこれからの事を考えなくちゃ、と思いながら、今

日一日元気に自分らしく生きようと思っている。私は人に頼るほうなので、この先一人になった時にどうしようかと思ったりもしている。

**F**：2年前に記録を担当し楽しい話を聞かせてもらったので、それ以来参加している。脳梗塞で寝たきりの夫の介護をして、最後まで看取り今年1周期を済ませたところである。夫は自分の趣味を十分楽しんだ人生だったので幸せだったのではないか。自分も悔いのない介護をした。

現在はダンベル、絵手紙を習ったり、趣味の書道も20年間続けており毎日忙しく過ごしています。先程「金持ちではなく人持ちになれ」という話がありましたが、私は高校を卒業後銀行に勤めたが、同期の仲間と今も交流があり、とても大事にしている。また、新婦人の仲間とも仲良くさせてもらっている。

**G**：今年64歳になる。私も居場所が欲しいと凄く思っている。夫婦で良い関係でいられることは素晴らしいと思うが、なかなか難しい。社会は「夫婦は一緒にいて仲良く居るのがいい」という感じがあるが、そこからは自分はずれてしまう。自分が変わることで、夫婦関係がうまくいくとアドバイスしてくださる方もいたが、それをしていくうちに、どんどん壺にはまらなくなり、もっと悪い関係になり今が最悪である。

夫婦の関係をそれ以上追及しようとは今は思っていない。何度か鬱状態になった時もあったが、それは、一つは、いい母親であろうとか、母も抱えていたのでその調整等をしているうちに、いつのまにか自分がいなくなってしまったからかもしれない。60歳前からそう思っていたが、忙しくて自分になろうということが出来なかった。なるためには、不器用なため、周りのものを無くしてしまわないと出来ない。

夫との関係では、夫が選んで生きてきた人生で、今後もそうなので介入することではないと思う。今は好きにやろうと思いはじめている。ただ、長年のそういう関係で身体に変調をきたしてきた。いろいろな人に助けられて乗り越えてきたが、ここまできると、自分が何をしたいかがわからなくなってきた。でも、まだまだ途中だと思ってもいるが、病気の両親を抱えリスクも大きいですが、私は好きに生きていきたいと思う。

**H**：母親大会には何度か参加したことがある。子供も自立して夫婦だけの生活になった。夫婦だけの生活になり、どうやって過ごしていこうかと不安に思ったが、結婚当初から、お互いに好きなことをして生活して

きたし、家事も分担してきたので、大きなとまどいはなかった。介護関係の仕事に従事しているので、介護する方の苦労や、女性の大変さがよくわかり、また、社会の基盤作りの遅れも痛感している。

「ステージ・刻」のような女性の生き方を考える場があるということを知り驚いている。昔の方は「女性はこう生きるべきだ」という枠の中で生きてきて、自分自身の生き方を問う機会さえも得られなかったのではないか。我慢を強いられてきた女性達が、ある程度時間に余裕が出来た時に、自分の人生は何だったんだろうと疑問を持つようになり、悩んだ時に「ステージ・刻」のような場所があるとありがたいと思う。

「個で生きる」ということには、とても共感する。今日は皆さんの話を聞きながら勉強したいと思います。

## フリートーク

東京都には女性センター等の場がある。新座市は、女性センターどころか、ホットプラザ1階に「男女共同参画センター」の窓口コーナーを作ってほしいという要望を出しているが実現していない。清瀬はどうか？

**助言者：**清瀬は全戸配布で女性のための情報誌を市が作っており、女性センターもある。その他に、乳幼児から就学前までの児童の場等、地域にはこういう場所がいろいろある。私の息子は引きこもり、家庭内暴力、不登校が3年続いた。家で暴れた時に、近所からの苦情も多かったが、正面切って言ってこない人にはそのままにした。友人、知人や新婦人や生協の人等には、息子に声をかけてもらうように協力依頼をした。

フリースペースでは、いろいろな方が参加されているが、例えば男女差別で職場を解雇されたアナウンサーに源氏物語の講演をしてもらったり、夫と半年口をきいていない人、30代で夫の介護をしている人等の居場所の提供をしている。ここのスタッフは、いろいろな問題を抱えてきた人ばかりで、普通の人はいない。スタッフは「話を聞いてあげ、助言はしない」最終的には、自分で起こったことは、自分で引き受け自分で解決していくべき。

また、読書室を作っていて、悩みの会の司書がいて、「女性作家の生き方」の紹介をしてくれている。作家がどのような生き方をしてくれてこの本を書いたのか等。

**C**：1対1で話をすることは、相手が荷物を一人でしょい込むことになるので、複数の人達と話をすることが大切。話をしても、簡単に答えが出ることはないが、話をすることで楽になるし、話をすることで、自分の問題が半分クリアされるのではないか。フリースペースのような場所が今後必要となってくるだろうし、作ろうと思えば作っていけるのではないか。

**A**：地域にそんな場所があればいいなと思い仲間と計画してきたが、諸事情により実現されていない。グループでは、月に1, 2回話をすることはある。スタッフが3, 4人で話を聞いてあげる時に、1対1だと対等の関係でいられるが、複数だときちんとした受け入れ体制が出来ていないと難しいのではないか？スタッフの心のあり方等、どのようにしているのか？

**助言者**：スタッフを決める時に、第一は出しゃばらない人を選んだ。私達はボランティアとは思っていない。スタッフも私達も生き生きと過ごしていくことを大切にしており、1か月に1回素敵な場所に行って楽しんでいる。(刻々の会)

また、読書会等のいろいろな企画にも、お金を払って一緒に参加して楽しんでいる。また、悩みを聞く会では、相手の条件と性格と好き嫌いによって参加してもらうスタッフと人数を決めている。

一番大事なのは、スタッフの気持ちを大切にしてくれる事で、しばらく来ないスタッフがいても絶対に責めないし言わない。ただ、楽しかった情報を知らせ、「どうしてる？」等のメールは頻回に送信している。スタッフ自身の居場所でもあることを大事にして、刻々の会では、スタッフ自身の話しかしない。スタッフと老後はそこで暮らそうかとも思っていたが、グループホームを訪問してみて、一緒に住むには難しいと思った。それぞれが、このスペースに参加して、学んだり、音楽を聴いたりして泊ったりしても、翌日は自宅に戻る。プライベートを持ちつつ、そこで楽しむというスペースにしたい。

この活動をいつまで行うか等の決まり事は一切ない。資金に関しては、

不平等として、私が権限を集中するようにしている。その方がスタッフの責任を軽くすることが出来る。スタッフ皆が仲良くやっていけることをとても大事にしていることが、うまくいっていることに繋がっていると思う。

**A**：私自身もフリースペースのような居場所作りに非常に興味があるが、スタッフとのあり方は、私が今まで考えていたのと違いがあるなど感じている。不公平にして権限を持つとのことだが、私は皆と一緒に（資金にしても）と思って、その中で得意、不得意に割り振りをすればいいと思っていた。瀬谷さんが、スタッフの力量をよく理解して、それぞれのパートを選ぶことを皆が納得して動いているところが違うと感じている。

**助言者**：自分も歳を取りしんどくなって来ているので、スタッフを人選する時は、頑張ってくれる人、出来る人を探すと楽である。しかし、最終的には精神的な部分で考えて人選した。人が良くてまじめな人。お互いに楽である。出来ない部分は出来る人がカバーするようになってくる。

**C**：スタッフの4名はどういう繋がりの方ですか？人との関係作りは長い時間が必要。その関係づくりを普段から行っていなければならないのではないかと？

**助言者**：4名はフリースペースに出入りしている人から選んだ。関係づくりでは、退職してからは、嫌な人とは付き合わないで、自分の持っている時間とお金を大事にするようになった。無理に話を合わせ、気をつかう人とは付き合わないようになってきた。

**司会**：新婦人の活動として、いろいろな場所を展開して頑張っていられるEさんはいかがですか？

**E**：新婦人の活動の中では、趣味を生かして様々な人との繋がりがあるが、その場では、自分に合う、合わないはわからない。ただ、一緒に活動をしていく中で、悪い人はいないなど感じる。

**C**：普通は肩に力が入っているからうまくいかないということが言える。

**A**：生きていく上では、自分で責任を持って決断していけばと思うが、いざ地域でやる事になった時、ここまでしたのに、自分の都合で止めていいの？という思いがあり躊躇してしまう。人のためではなく、自分のためと言ってはいるが、なかなか難しい。リーダーとなる人がある程度

のものを発揮していかなければならない。イメージとして自分がそうならざるを得ないと思うが、ギリギリまでは仲間と一緒にやりたいという気持ちが強く、瀬谷さんのようには出来ない。

新婦人のやっている活動も、皆で地域の間を作り部分的にやっているという点では、フリースペースと重なることがあるのでは？清瀬には女性センター等の場作りがあるが、それぞれが出来る場所で出来ることをしている時に、瀬谷さんの活動はすごいと思う。歳を取った時に、しんどいのは止めようという気持ちもよくわかり、ひとつひとつが響く。新座の新婦人の活動もすごいし、新座でも何か出来ると思う。

**G**：新座の女性達は繋がっていけると思う。

**司会**：良さは行政側の支援もあって、網の目のような活動の両方がなければうまくいかない。新座では、NPOが子育てに関わってくれたり、新婦人の活動も、場の提供はしていると思う。組織だけに任せず、個々にやっている人達＋市の援助が必要ではないか。

**A**：ホットプラザは女性や子育ての支援するべき施設であるはずなのにそうではない。女性活動をしている人達が、おかしいと声をあげ、市民の声を反映させ、市民の支援になるようにと話しているが、なかなかその活動が市民には見えない。

**司会**：国がきちんと「男女共同参画」を自治体で作rinaさいと言った時に、東京都は早急に作ってきて、新座市も形だけはある。

**E**：施設を作る時に、男女共同参画の審議委員となったので、女性団体が何人か集まり、運営をするシステムを作ってほしいと要望したが認められなかった。ここが問題である。東京都に見学に行ったことがあるが、各女性団体が集まって運営している。新座でそれを推進して欲しいと行政側に要求しているが受け入れてもらえない。センターの管理側からも発信するが駄目で、今続いているのは、困りごと相談が2箇所行われているくらい。運営委員に私達新婦人も入りたいが入れてもらえないため、結局受身になってしまう。

**C**：もっと広く運営委員を取った方が、いろいろな発想が出てやりやすいと思うが。

**A**：行政側がそう思っていないということ。新座市は男女平等を推進している市なのに、なぜ女性センターへの住民の要望を取り入れないのか。

公民館にも、公民館運営審議がいる。それと同じことがなされていない。  
E：母親大会でも、運営委員に婦人団体を入れて欲しいと要望を出して  
いきたい。

### 市への要望事項

1. 市民参加の運営審議会を設けて下さい。
2. 全県、全国的にも先進的な新座市の男女共同参画推進の行政を後退させず、引き続き向上させてください。
3. 女性センターの位置づけを市民にアピールするために、ほっとプラザ1階に「男女共同参画センター」の窓口コーナーを作ってください。
4. 公民館の使用料は原則無料に戻し、地域の誰もが安心して学び、集える場にしてください。

### 申し合わせ事項

1. 人間らしく豊かに生きるために性の差別をなくし平等を実現しましょう。
2. 行政は市民の要望、要求によって方向性が作られていきます。すべての人がお互いに生かされ、共生、共存していかれる社会を築くため、行政に働きかけ声をあげ続けましょう。

### 最後に・・・

今回は初めて参加された方がいらしたが、初めて参加する人が話やすい場作り、雰囲気を作っていける母親大会にして行きたい。次回にまた参加したいと思えるように。